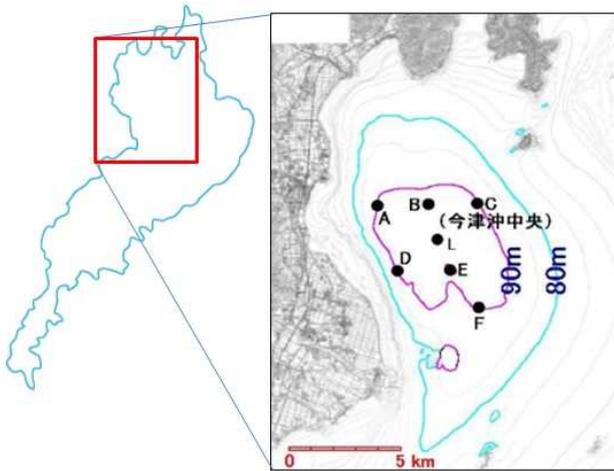


【参考】

北湖では、例年春季から初冬にかけて水温躍層が形成され、上層と下層の水の対流がなくなるため、底層DOが低下し、晩秋に最も低くなります。その後、冬の水温低下と季節風の影響により、水深の浅いところから徐々に循環が起こり、表層から底層で水温やDOなどの水質が一様となります。この現象を全層循環と呼んでいます。

北湖今津沖の第一湖盆（水深約 90m 地点）では、例年 1 月下旬から 2 月にかけて、全層循環が確認されていますが、平成 30 年度は昭和 54 年度の調査開始以降初めて全層循環が確認できず、令和元年度も 2 年連続で全層循環が確認できませんでしたが、令和 2 年度は 3 年ぶりに確認されました。

1. 調査地点



C、L：定期調査地点

A、B、D、E、F：補足調査地点

< 第一湖盆水深 90m の面積 >

琵琶湖全体の約 5 %

< 第一湖盆水深 90m 以深の水の容積 >

琵琶湖全体の 1 % 未満

2. 【速報】調査結果（令和 4 年 11 月 8 日時点）

単位:mg/L

調査日	8月			9月				10月				11月		
	8/1	8/8	8/22,23	9/7	9/12	9/26	9/27	10/3	10/11	10/17	10/24,25	10/31	11/1	11/7
A		4.3	5.3		3.4		2.7		4.1		2.0		2.0	0.6
B		5.5			2.5		2.6		3.2				2.0	
C(今津沖中央)	5.8	5.1	3.6	3.5	3.7	3.3		2.5	2.8	2.5	2.9	2.6	2.5	2.3
D		4.1	7.6		6.9		4.3		2.8		2.4		3.3	1.1
E		5.0			3.3		4.0		2.8				1.2	0.7
F		4.9	4.5		3.4		3.7		2.6		2.7		2.3	1.8
L(第一湖盆中央)	4.8	4.1	4.6	3.4	3.2	3.6		3.4	4.1	2.9	2.2		2.0	1.6

表 1 令和 4 年度各地点の底層 DO 調査結果

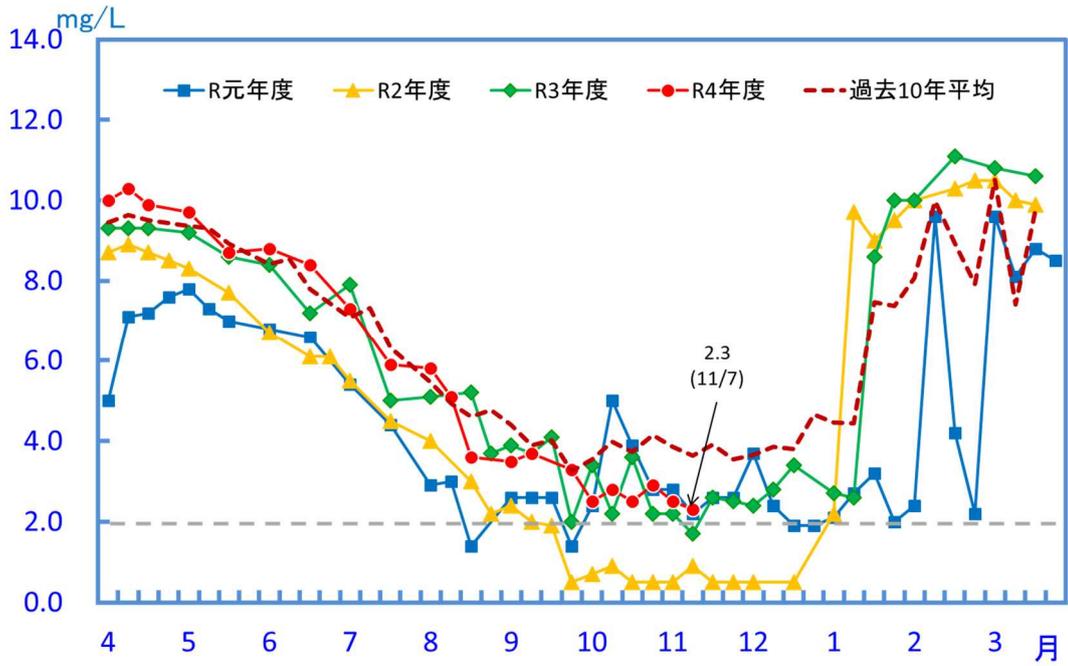


図1 C点の底層DO経月変動

※ 昭和54年（1979年）から測定を行っているC点（今津沖中央）の底層DO経月変動を示しています。

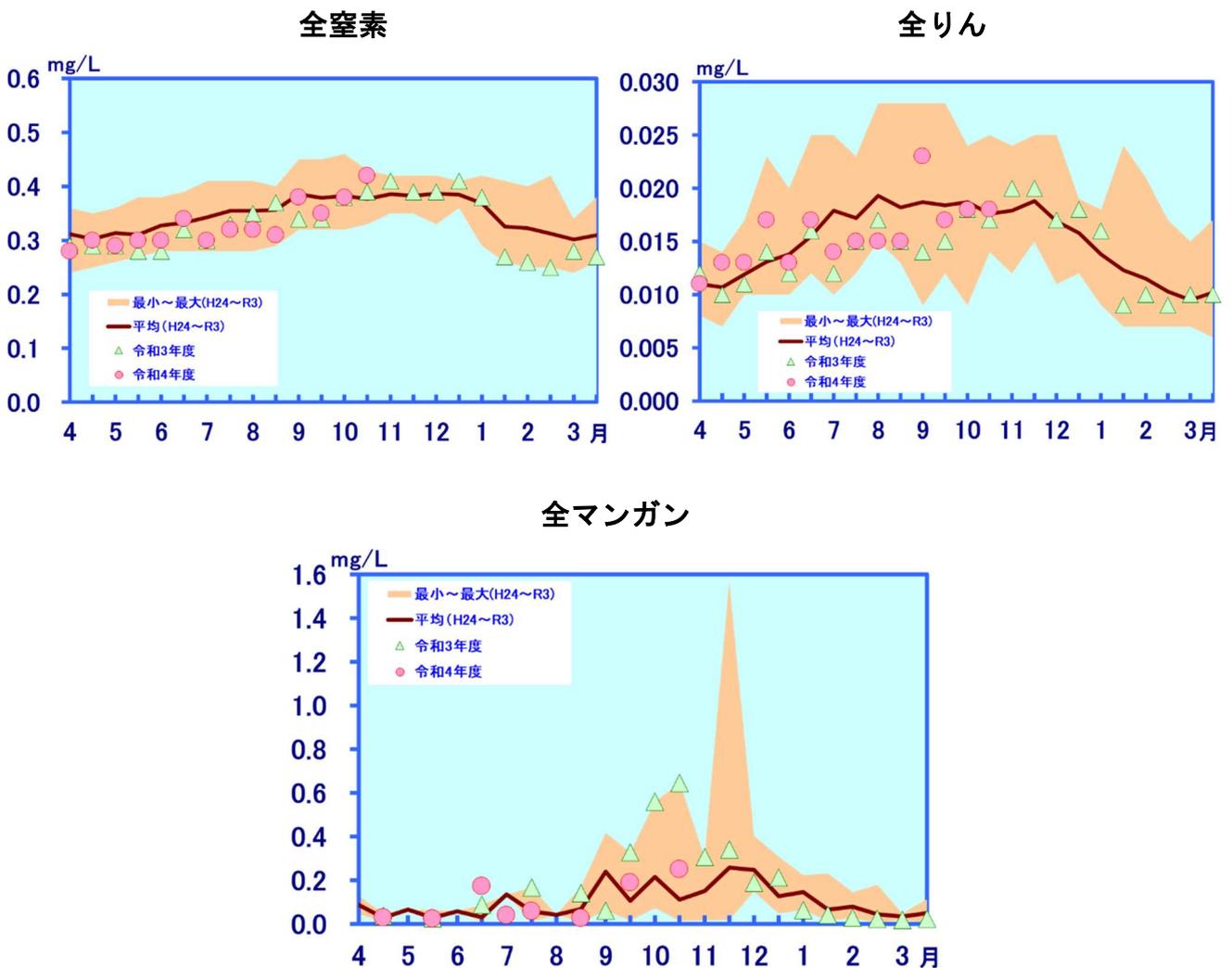


図2 今津沖中央（C点）底上1mの主要な水質の状況（経月変動）



図3 ROV (水中ロボット)を用いた湖底調査 (11月10日)
 実線: イサザ生存個体 破線: イサザ死亡個体

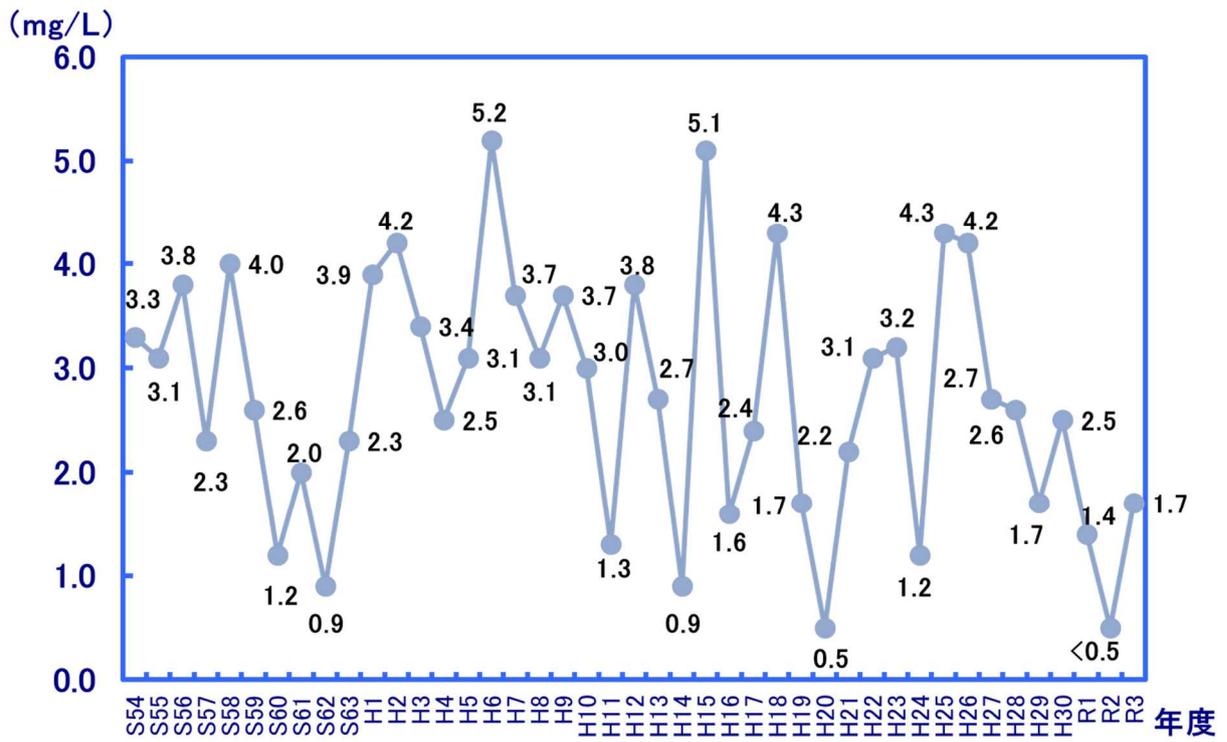


図4 C点における底層DOの年度最低値